

第6学年 国語科学習指導案

令和3年12月8日 4校時

6年1組 24名

授業者 大城 政直 印

1 単元名「伝えよう！平和学習を通して思ったことや考えたこと」

教材名「自分の考えを発信しよう」(教育出版6下)

2 単元目標

- (1) 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 [知識及び技能] (1)カ
- (2) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 [思考力、判断力、表現力等] B (1)ウ
- (3) 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 [思考力、判断力、表現力等] B (1)オ
- (4) 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 [思考力、判断力、表現力等] B (1)カ
- (5) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、世の中の様々な出来事について、日頃から感じたり考えたりしていることをもとに、主張を効果的に伝える構成を考えて、説得力のある意見文を書き、新聞などのメディアを通じて発信する内容になっている。課題の探し方や取材の観点、主張を効果的に伝える構成の方法等が示してあり、児童が考えを発信するまでの流れが、一つの学習モデルとなっている。児童文例は、「私たちとインターネットとの関係」について書かれたものであり、自分の意見を裏づける根拠として、内閣府の調査データを活用しながら論を進めている。事実と意見を織り交ぜながら、結論部の自分の主張へとつなげる構成となっている。その結論部では、「予想される反対意見とそれに対する反論」を入れている。児童には、文例にある「確かに、…。しかし、…。」という書き表し方も参考になると考える。

(2) 児童観

本学級の児童は今年度を実施された全国学力・学習状況調査における、「B書くこと」に関する問題において、正答率が47.6%で、県との差が14.7ポイントも開いてしまった。

児童はこれまでに、「B書くこと」の領域について2つの教材で学習してきた。一学期の教材「随筆を書こう」では、自分の経験したこと等をテーマに随筆を書き、ペアやグループに紹介する活動を行った。児童は、比喻や反復などの表現の工夫に気付いたり、感じたことや考えたことなどから、書くことを選ぶことができた。また、9月の教材「物語を作ろう」においては、大勢の人々が写った写真の中から登場人物を決め、どのような性格か等人物設定をし、物語を書くといった活動を行った。5学年で学習した教材「大造じいさんとがん」や「雪わたり」などの物語の文章構成を例に学習することで、児童が物語を作る手立てとなった。

しかし、表現の工夫は個人差が大きく、表現の豊かな児童もいれば苦手な児童もいた。物語の展開を考

える面においても同様に差が見られたため、表現や展開に関する指導を繰り返し行う必要がある。また、グループ交流において推敲する場を設定したが、友達からアドバイスを受けてもなかなか改善に生かせない児童もあり、指導の工夫が必要である。

12月に実施したアンケートにおいて、「意見文を書くことは得意ですか。」という質問に対し、50%が「どちらかというと苦手・苦手」と回答した。また、「文章を書く授業で、『苦手だな』『難しいな』と感じるものは何ですか。」という質問に対しては、「何について書くか、どんな理由か、等の自分の考えをハッキリさせること。」「書いた文章を読み返して文章を推敲すること。」「『始め・中・終わり』や『頭括型・尾括型・双括型』等の構成を考えること。」と、解答した児童が約6割いた。

(3) 指導観

本単元では、「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える力」、「事実と意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」、を育みたい。そこで、「平和学習を通して思ったことや考えたことを意見文に書き、新聞投稿する」言語活動を位置づけ、手立てとしてカードを使った活動や視点をもって推敲し合う交流活動を行う。

単元に入る前に、平和についての意見文を書くことを伝え、修学旅行等で資料を集めるように伝えておく。授業では、教師が補助教材として作成したモデル文をもとに、事実と意見を区別して書く視点、①事実とは、「本当にあったこと・誰でも確かめられること」②意見とは、「その人が考えたこと」③文末表現に着目して書き分けている。を提示する。その後、学習の流れを確認すると共に、ゴールをイメージさせる。また、平和学習や事前学習で集めた情報をもとに自分の主張を決定する。その際、伝えたいことを事前に考えておくように声かけしたり、ウェビングや交流を行ったり、主張例を提示したりする。さらに、教師は児童が必要とする資料やURL等を紹介したり、第2時と第3時の間に資料や材料を集める時間を設けたりする等の手立てを行う。取材の段階で、引用を前提とした「出典」をはっきりさせておくよう指導する。

第3時から、集めた資料を整理し、意見と理由や事実をそれぞれカードに分けて書く活動を行う。そうすることによって、自分が主張したいことは何か、それを支える理由や事実は何かが明確になり、自身の考えを整理することができると考える。また、文章構成の特徴や効果が示された表を、モデル文とともに児童に提示し、それぞれの構成の特徴や効果を確認する。その上で、構成を考える場面において、意見と理由や事実を書いたカードを並べ替えることによって、理由や事実を文章全体の中でどのように配置すると、自分の主張が効果的に伝わる構成になるかを考えることができるであろう。また、結論の部分に「予想される反対意見とそれに対する反論」を入れるようにしたい。そうすることで、より説得力のある文章になると考える。

第5時から、事実と意見を区別し、構成を意識しているか等を確認するために、交流活動を行う。具体的には、①まずは個人で、自分のカードを読み、足りていない情報はないか確かめたり、不安に思っている部分にメモや線を書いたりする。②ペアやグループで、互いのカードを読み合い、自分の考えが伝わるかを口頭で解説し合う。③ペアやグループで、不安に思っている部分や主張がよりよく伝わるか等を交流し、推敲する。これらの活動を行う。その際、推敲する観点を、児童が分かりやすい言葉に変えて作成したチェックシートも活用する。そうすることによって、具体的な視点で互いの意見文を推敲することができるようにする。

4 本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に学習に取り組む態度
①文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴	①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするな	①粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。

について理解している。 (1)カ)	ど、自分の考えが伝わるように書き 表し方を工夫している。(B(1)ウ) ②「書くこと」において、文章全体の 構成や書き表し方などに着目して、 文や文章を整えている。(B(1)オ) ③「書くこと」において、文章全体の 構成や展開が明確になっているか など、文章に対する感想や意見を伝 え合い、自分の文章のよいところを 見付けている。(B(1)カ)	
----------------------	---	--

5 指導と評価の計画【全6時間】

	○学習活動	・指導上の留意点	【評価規準】(評価方法)
学習前	○平和学習に向けての学習課題を設定する。 ○自分の学習課題に関する情報を収集する。 ○沖縄県平和祈念資料館や糸数アブチラガマを訪れて、自分の学習課題について調べる。	・基本的なテーマを提示し選べるようにする。 ・引用する文章は出典をはっきりさせておく。 ・平和学習後に意見文を書くことを伝える。	
1	○単元のゴールを確認する。 ○表1の文末表現の例えをもとに、モデル文から事実と意見を読み取る。	・ゴールをイメージしやすいように、モデル文を提示する。 ・表1の文末表現の例えを提示する。 ・事実と意見を区別して書くなど、書き表し方を工夫することを意識し、モデル文を読み取らせる。	【知・技①】 文章の構成や展開、話や文章の特徴について理解している。 (行動・記述) 【態度①】 学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。 (行動・記述)
2	○これまで習った構成について振り返る。 ○集めた情報をもとに、自分の主張したい事柄を決定する。	・ウェビングや交流、伝えたいことの例を提示するなどして、主張の決定をうながす。 ・教師は、児童が必要とする資料やURLを紹介する。	
課題	○主張が相手に伝わりやすくなる情報を収集する。	・授業内だけでは集められない資料などを、本やインターネット、新聞などから収集する時間を設ける。	
3 【検証①】	○「伝えたいことを明確にするためのカードを使った活動」を行う。 ○事実と意見、理由を区別してカードに書く。 ○文章に書く際の優先順位を考えて番号を打つ。	・事実と意見を区別して書くなど、書き表し方を工夫する視点を確認した上で自分の考えをカードに書かせる。 ・引用した文章などは出典をはっきり明記するように伝える。 ・カードに、意見文に書くことを箇条書きで記入させる。	【知・技①】 文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。 (行動・記述) 【態度①】 粘り強く試行錯誤しながら書き表し方を工夫している。(記述)
4	○モデル文をもとに文章構成の特徴や効果を知る。 ○「文章全体の構成や展開を考えるカードを使った活動」を行う。 ○下書きをする。	・モデル文を提示し、頭括型、尾括型、双括型それぞれの特徴と効果を児童が構成を考える手立てとする。	【思・判・表②】 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。 (記述・発言・意見文) 【思・判・表①】 事実と意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (カード・意見文)
5 【検証②】	○チェックする視点に沿ってグループで交流活動を行うことによって、主張が伝わりやすい文章になるように推敲する。 ○下書きを完成する。	・交流活動の流れを具体的に示す。 ・書き表し方の工夫や文章構成などについてチェックする視点を確認し、視点に沿って推敲し合えるようにする。	【思・判・表③】 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。 (記述)
6	○文章を清書する。 ○意見文を読み合い、互いのよさを伝え合う。	・完成後は、清書した者同士で互いの意見文を読み合い、友達の考えや書き表し方のよさを伝え合わせる。	

6 本時の学習

(1) 本時の目標

カードを使った活動を通して、自分の意見・理由・事実をはっきりさせることができる。

(2) 本時の評価規準

自分の意見・理由・事実をはっきりすることができた。

(3) 本時の授業の工夫

文末表現などに着目させ、意見・理由・事実をカードに書くことによって、自分の考えをはっきりさせるようにする。

(4) 展開【3／6時】

	○学習活動	・指導上の留意点	【評価規準】（評価方法）
導入 5分	前時の学習の確認 ○単元のゴールを確認する。 ○これまでの学習を振り返る。 ○めあてを考える。	・単元のゴールや前時までの学習を振り返らせ、本時のめあてを立てるようにする。	
展開 35分	めあて 自分の意見・理由・事実をはっきりさせよう。 見通す ○自分の意見・理由・事実をはっきりさせる視点を知る。 ①「本当にあったこと」は事実、「その人が考えたこと」は意見など区別し、文末表現に気を付けて書いているか ②意見・理由・事実がつながっているか ③意見のカードに「反対の意見に対する反論」が書かれているか やってみる ○自分の意見・理由・事実を書いたカードを、視点の表に沿って確認する。 伝え合う ○ペアやグループでカードの内容を伝え合い、視点に沿って確認し合う。 ○文末表現に着目し、事実と意見を区別しているか確認し合う。 ○その人の意見・理由・事実がつながっているか確認し合う。 ○意見のカードに「反対の意見に対する反論」が書かれているか確認し合う。	・例を示して、意見・理由・事実をはっきりできるようにする。 ・はっきりできない児童には、個別に対応する。 ・伝え合う視点等を全体で確認した後にペア・グループ活動させる。	【思・判・表①】 自分の意見・理由・事実をはっきりさせている。（カード）
まとめ 10分	まとめ ○視点に沿って確かめると、意見・理由・事実がはっきりできる 振り返り ○視点に沿って振り返りを書く。	・児童の言葉でまとめるようにする。 振り返りの視点 ・4/6時の学習につながることを書かせる。	

(5) 板書計画

十二月八日（水）	伝えよう！平和学習を通して思ったことや考えたこと
めあて 自分の意見・理由・事実をはっきりさせよう	見通す 自分の意見・理由・事実をそれぞれカードに分けて書き、次の①～③の視点で確認しよう。
①「本当にあったこと」は事実、「その人が考えたこと」は意見など区別し、文末表現に気を付けて書いているか ②意見・理由・事実がつながっているか ③意見のカードに「反対の意見に対する反論」が書かれているか	
やってみる 自分の意見・理由・事実を書いたカードを、視点に沿って確認する。	伝え合う ペアやグループでカードの内容を伝え合い、視点に沿って確認し合う。
まとめ 視点に沿って確かめると、意見・理由・事実がはっきり区別できる。	ふりかえり 次の学習では、どのようなことをしそうか書く
単元のゴール	
モデル文	